

一般質問(令和5年11月20日)

## 要介護の認定業務の遅れ 介護人材不足など緊急事態が発生!

**Q 井口 えみ** 要介護認定が著しく遅延。本来申請から30日以内で要介護認定をしなければならないところ、98%が30日以上かかっています。

**A 高齢者 担当部長** 3月には解消の見込み。

### 井口えみの視点

その後3月の予算特別委員会で再質問しましたが、それでも未だに87%が30日以上かかっているという現状です。

予算特別委員会(令和6年3月11日)

## ショートステイ稼働率の低さ

**Q 井口 えみ** 実質的な稼働率を施設ごとに示してください。また希望する人のニーズに充分答えられているのか伺います。

**A 高齢者 担当部長** 稼働率は示せません。

**Q 井口 えみ** ショートステイは在宅介護を支える大切な事業です。人手不足がより深刻化することを考えれば、先手を打って対策を講じるべきではないのでしょうか。危機感が足りないように感じますが。

**A 高齢者 担当部長** 基礎自治体としての適切な役割を果たしていきます。

### 井口えみの視点

全体の約4割が稼働率80%を切っており、中には稼働率が0%の施設すらあります。この実態を分かっているが問題を直視していません。原因は介護人材不足で、国の対応が遅れているなら、自治体が先手を打って対策を講じるべきです。せっかく施設は整備されているのに稼働できていません。



## プロフィール

杉並区議会議員(無所属・都民ファーストの会)

# 井口 えみ

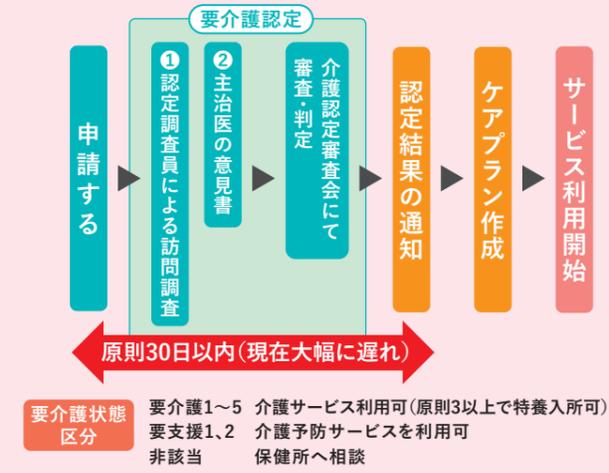
保健福祉委員会  
災害対策防犯特別委員会

- 1988年3月 杉並区生まれ O型 うお座 辰年
- 沓掛小、國學院久我山中・高、明治大学法学部卒
- 大学時代は明大スポーツ新聞部の記者としてラグビー・体操・自転車競技を担当
- 2010年4月 都内旅行会社に留学アドバイザーとして就職 北京事務所勤務
- 2020年9月 実家の運送会社社長として経営参画 トラックの運転もこなす



- 荻窪消防団第一分団所属
- 東京青年会議所杉並区委員会 所属
- 2023年4月 杉並区議会議員 無所属
- 家族 夫、一男一女、愛犬コロ

## 介護保険サービス利用までの流れ



## 介護人材確保策は最重要事項

**Q 井口 えみ** 介護人材不足解消のため、職員の宿舍借り上げ支援事業等を独自に行っている自治体が23区の半数で、近隣の中野区や世田谷区も行っています。潜在的な介護人材の流出を止め、良い人材を確保するためにも、仕事の需要に見合う処遇を区として考えなければなりません。近隣区の動向を注視し、劣らない施策を打ち出すべきだと考えますが、所見を伺います。

**A 高齢者 担当部長** 今年度予算ではケアマネの法定研修費助成を行います。今後は東京都の動向を見定めながら先々に向けて調査研究を続けます。

### 井口えみの視点

介護人材の不足と現場の負担軽減は、今や国を挙げて取り組むべき最重要課題の一つです。基礎自治体においてもそれは同じです。介護保険事業は公の制度であり、保険料を徴収している以上、いざという時に機能しないような状況では困るのです。極論、国家的詐欺と言われてもおかしくないです。本来であれば現場で困り果てている方々に対し、行政のプロ、その職員組織のトップである区長がしっかりとリーダーシップを発揮し早期に解決すべき課題なのです。

**基礎自治体の一番の課題は少子高齢対策であるにもかかわらず、上層部の危機感が足りません。要介護認定の遅れもショートステイの稼働率の低さも介護人材の不足が原因。こういう時こそトップが主導して具体的な対策を講じるべきであるのに、後手に回っています。**

## MEMO ポートマッチ事業混乱の源は...

区長が自身の支持勢力を拡大させる為に本来中立公正であるべき選挙管理委員会を利用しようとした疑い。ポートマッチを予算化した総務省や都選管から違法性の懸念が示され中止。その責任をとり選管委員長が辞任。肝心の「誰がどういった経緯で企画したのか」という真相は闇の中...

### ※ポートマッチ(投票マッチング)

令和5年4月の杉並区議選で選挙管理委員会が有権者に自分の考えに近い候補者を示す「ポートマッチ」事業を強行しようとしたが、総務省は「公正な取り扱いを担保することは困難であり、選挙運動と認められるおそれがある」との懸念を示し、断念に追い込まれました。



# 井口 えみ

〒167-0033  
杉並区清水3-29-13井荻パレス201  
TEL:03-6824-1338  
FAX:03-4496-4267  
E-mail: emi@suginami-iguchi.com

議事録、議会映像はQRコードからご覧いただけます。



## 「すぎなみの未来」が心配です。

「みんなの笑顔があふれる杉並の未来に全力、生まれ育った杉並への恩返し私の使命」を掲げ、2023年杉並区議会に誕生した井口えみ区議会議員の活動報告です。地域の皆さまの声を区政に届け、真逆の立場に立つ岸本区長に真っ向から政策論争を挑んでいる区議会での活動の一端をまとめました。皆様のご意見ご要望をお聞かせください。

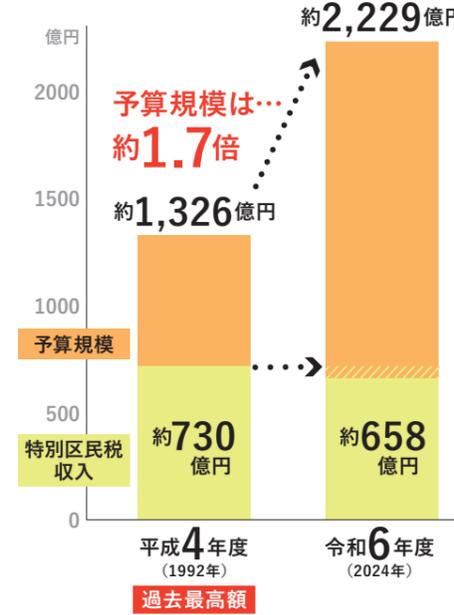
## データから見る

## 岸本区政の財政運営は?

## 区長の政治手腕を問う

予算特別委員会(令和6年3月6日)

特別区民税収入 が過去最高額だった  
32年前と現在の比較



特別区民税の税収は...  
**平成4年の水準まで回復してない**

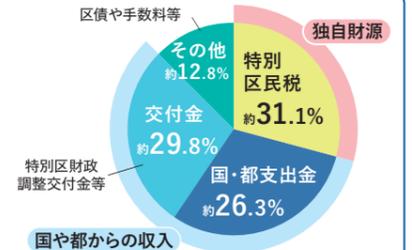
今のところ税収は右肩上がりとはいえ、過去最高額の特別区民税収入額には及ばず。にもかかわらず予算規模は当時の約1.7倍の2229億円!!

「57万区民の幸せ」という大きな問題への取り組みを前に進めるには独りよがりな思い込み、思い入れだけではいけません。政策を実現するための幅広い視野が必要ではないでしょうか。先行き不透明な経済状況のいま、健全な財政運営が求められます。

MEMO 令和6年度一般会計歳入予算

## 区財政の内訳(一般会計・歳入)

特別区民税だけが財源ではなく約6割が国や都からの交付金(一般財源)や補助金(使途が特定されている特定財源)。要するに... いかにも有効に特定財源や都の交付金等を活用し、同時に区民サービスを向上させるかを考えなくてはなりません。



## 経営上手だった前区政を振り返ると...

特定財源を活用し認可保育園を58から190園へ増やし、待機児童ゼロを達成しました。これは区のもち出しを最小限に抑え区民サービスを飛躍的に向上させた大きな功績です。健全財政の基本です。

## 本年度も保育の「待機児童ゼロ」7年連続達成!

- 当時のがんばりのおかげでベースラインを満たすことができ、今の手厚い支援に繋がっています
- 兄弟姉妹が同じ園に入所できる仕組み
- 障がい児指定園の拡大
- 父母が同時に育休を取得できる仕組み

例えば...保育施策で対比すると

## 一方、現区政は...

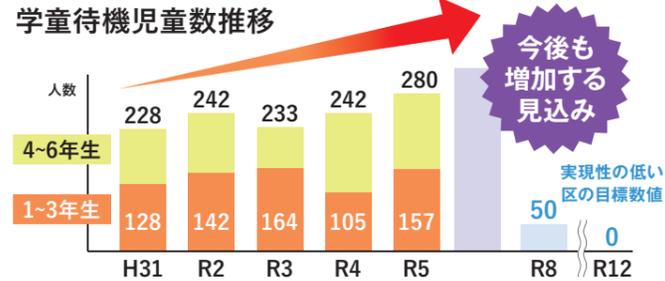
「民営化見直し」「公共の再生」が公約。民営化した区立保育園の再公営化を進めれば運営経費はほとんどが区の持ち出しになり、財政逼迫が懸念されます。一見、耳ざわりの良い主張ですが、自治体運営の基本的な考え方がなっていません。

**今、優先順位を見誤ると将来世代に大きなツケを残すことになる!**

# 徹底検証 岸本区長の言行不一致と不誠実な政治姿勢を質す!

## 児童館再編見直し 学童クラブ待機児童問題

口先だけの区長公約を問う



※学童クラブ利用児童数は区立小では1年生は約60%の利用率、申込者数は10年前の約1.8倍

一般質問(令和5年6月1日)

### 待機児童解消の見込みは?

**Q 井口 えみ** 年々増加傾向にある学童利用申込者をみれば、待機児童問題は喫緊の課題です。優先度を上げて、早急に目標の前倒しなどの検討を進めるべきと感じますが、いかがでしょうか。

**A 子ども 家庭部長** 学童クラブ需要は今後も当面の間は増加傾向が続くものと見込んでおり、区では、今後も様々な方策を検討しながら待機児童対策を進める考えです。目標時期につきましては、総合計画等の改定の中で改めて検討しています。

井口えみの視点

新しい杉並区実行計画・総合計画案では具体的な整備方針や目標の前倒しは明示されていません。それどころか重点施策から外され、具体的な結論は先延ばし、解消は先送りではないでしょうか。

一般質問(令和5年9月13日)

### 区長公約の矛盾を追及

現区長の「対話の区政」の本当の姿は、杉並区民以外にも参加できる集会を開き、区民でない参加者が発言。既存計画の賛成派や説明員の職員を吊し上げ、「さも過去の手順が間違っていたかのような印象を与えるための場となっている」という。認識不足と一部の反対意見に偏重してつくられた公約が実現できないことを誤魔化すために、時間稼ぎのための対話集会を重ねているようにしか見えません。



井口えみの視点

岸本区長は選挙時、子どもの居場所を奪うことになるからという理由で児童館再編に反対していました。しかし区長就任後は前区政下の計画を踏襲して自ら児童館2館を廃止したのです。これは明らかに公約と真逆の対応でした。そもそも児童館再編は、子どもの居場所を増やすための計画であり、公約通りストップしたら待機児童が解消できないことは明らかだったのです。これは、再編

**MEMO 児童館再編計画について**

岸本区長は / 区長選挙では 子どもの居場所を奪う児童館再編は反対

当選すると 自ら児童館を2館廃止

**〈児童館再編は子どもの居場所を増やすための施策〉**

**検証** 既存の児童館ではあふれる需要を受け入れきれない! 児童館はすでにパンパン!

施設再編前

近年需要が増加

乳幼児親子の居場所

学童クラブ

小学生の一般来館

中・高校生の居場所

施設再編後

子ども子育てプラザなど

学童クラブ 放課後等居場所事業 小学校施設を活用

ゆう杉並など

児童館の中高生の利用者は毎日平均2名。しかし、そのために相当なスペースが必要で非効率な施設運営となっています。また、乳幼児親子は午前中で帰らなくては行けませんが、専用館ができれば朝～夕で遊べるようになります。

一般質問(令和5年11月20日)

### 児童館再編を白紙 待機児童解消は進まず

**Q 井口 えみ** 区長は就任後は公約とは真逆の事業を進めてきました(就任後2館廃止)。小学校内への学童クラブの整備や、児童館の跡地活用として学童クラブ専用館を造ったことなど、これを評価する保護者からの声は多く、検証結果を見ても、おおむね肯定的に捉えられていることが分かりますが、区の見解を伺います。

**A 区長** 学童クラブの待機児童が多く発生している小学校区では、児童数の増加により、学校内に学童クラブの育成室として提供できるスペースを見いだすことが困難な状況となっております。

**Point** 前区政下では施設再編により過去10年間で受け入れ枠を2,000人以上増やしました。

計画の正当性を岸本区長自身が認めた証左にほかなりません。ならば素直に自分の公約の誤りを認め、再編計画をより拡充し、加速化する方向で考えればいいのです。しかし自分の誤りを誤魔化すためにその後の取組を白紙にして対話に逃げているように思えます。一旦立ち止まり解決策を先送りしている間に、待機児童が増え続けていくなら、困るのは子どもと保護者です。

## 事実上の公約撤回に謝罪なし

区長の政治的・道義的責任を問う

一般質問(令和6年2月16日)

### 公約作成の不透明さが大問題

**Q 井口 えみ** 阿佐ヶ谷駅北東まちづくり計画は、区長さんの姿勢が揺れています...

**A 区長** 私は区立施設の再編、都市計画、道路拡幅など再考して欲しいとの声を受け出馬を決意しました。

### MEMO 阿佐ヶ谷駅北東まちづくり計画

総合病院を隣接する屋敷林を有する私有地に移転。移転後は病院跡地に杉一小を移転。杉一小跡地は今後時間をかけて検討。

区長選挙では 問題があり、見直すべき。

当選すると 「移転改築も含め検討する」と推進を表明したかと思えば立ち止まり、「振り返って検討」。最終的には「田中区政下での計画に優位性があるので推進」と腰がすわっていません。

## 台風でも 早々と退庁する危機意識

区長の危機管理意識の欠如を問う

一般質問(令和5年9月13日)

### 警報の中、早々にご退庁 災害対応は職員任せ

**Q 井口 えみ** 6月2、3日の台風2号の際には、区長は19時25分に公用車で帰宅し、その後の災害対応は職員任せでした。居住歴も浅く、この区についての理解が追いつかないなら、有事の際は率先して、ご本人の目で確かめられるべきではないでしょうか。

**A 区長** 災害対策本部のトップとして杉並区民を守る所存です。

井口えみの視点

台風2号は令和5年6月2日、3日、時間最大雨量50ミリ。17時頃には洪水及び大雨警報が発令。過去同様のケースでは前職の区長は庁内で陣頭指揮を取りつつ、豪雨の中、刻一刻と水位が上昇する現場へ出向き、警戒に当たっている職員からリアルタイムで状況を聞いていました。国からは何度も「命を守る行動を」と呼びかけられる中、深夜0時過ぎが雨のピークで河川の氾濫が予測されていたにもかかわらず、岸本区長は7時過ぎには公用車で帰宅。緊急時の歴代区長とはまさに真逆の対応です。善福寺川の洪水対策は杉並百年の計とも言える最重要課題です。岸本区長の答弁は明らかに言行不一致ではないでしょうか。



予算特別委員会(令和6年3月13日)

### 「都市計画道路は必要」事実上の公約撤回!

都市計画の必要性を問い詰めた結果、岸本区長は「都市計画道路は必要だ」と答弁されました。選挙の時には「都市計画道路の見直し」を掲げ、都市計画道路反対派の人たちと前区長批判を展開していました。選挙の時の言動が論拠薄弱で無責任であることを認め、素直に謝罪し協力を仰ぐのが筋ですが「謝罪撤回はしない」と言い切りました。いま、岸本区長の政治的道義的責任が問われています。

### 岸本区政の実態は...



決算特別委員会(令和5年10月6日)

### 災害時の透析医療は?

**Q 井口 えみ** 首都直下型地震が起きた際の被害想定では、上下水道の26%が断水し、復旧まで17日かかると想定されています。備蓄している区内の水量は?

**A 健康推進 課長** 区内の透析医療機関4カ所において貯水槽で約42万リットルを貯水しています。全ての水を透析に使うわけにはいかず、それでは足りないのが、東京都の災害対策本部に給水車の支援要請をします。

井口えみの視点

### 災害時の水の確保が課題

大量の水を必要とする透析医療においては、一回の治療に一人当たり約200リットル必要です。災害時に区内の透析患者全員の治療をするには1日82000リットルが必要。結局今の貯水量では全く足りず、東京都の医療設備体制に大部分を委ねることになります。しかし、都が保有している給水車はたったの30台(一台当たり2000リットル積載)であり、杉並への配給量がどの程度かは全くわかりません。給水車一台では10人分の量しか運べず、もし30台フル稼働しても一日300人分。全都の複数地域で断水になったら心もとない脆弱な態勢だということがよくわかります。大きな災害が起きるたびに透析医療の問題点は露呈されてきました。区民の命を守るため、独自の危機管理体制を早く整える等、水の確保策を検討するべきです。